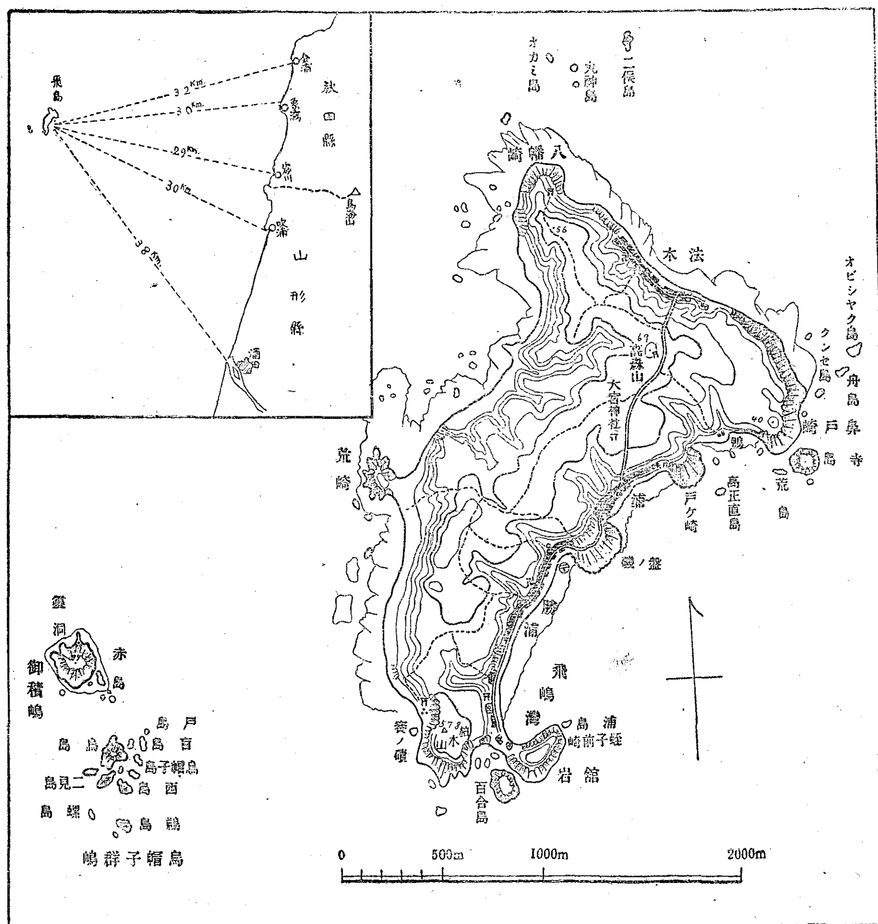
結 城 嘉 美*:　飛島（羽後）のフロラ

Yoshimi YUKI*:　Flora of ins. Tobishima, prov. Ugo

飛島は山形縣に於ける唯一の小島で，本土との最短距離約 29 km. の日本海上にあるが，酒田港から約 38 km. 定期船で約 3 時間で渡ることが出來る。

地形は南北に細長く長軸約 3 km. 幅 1～2 km. 周囘約 10 km. 面積 2.3 方粁に過ぎない。主として第三紀層からなる海拔 50 m 前後の隆起台地で，最高點高森山で 69 m，海上から遠望するときは，全く平坦な海面と平行する地貌である。



* 山形縣立楯岡高等學校　Yamagata Prefectural Tateoka Upper Secondary School, Tateoka, Yamagata-ken.

この島は北緯39°12′東經139°33′山形縣としては最北に位するにかゝわらず，年平均氣溫—最高最低氣溫の平均—は對岸の吹浦と共に12.9°を示し，また午前10時の氣溫の年平均は13.67°で共に本縣の最高を示している。尙，最高最低氣溫の隔差は最も少く，積雪も最深10cmに達することは稀で，縣下最高溫暖の氣候的條件を有している。尤も對岸の吹浦地方と積雪を除いては，略々同樣であるが，飛島は高度が低く殊に本土に面する東海岸は，冬季の西北風を避ける位置にあつて，對馬暖流の影響するところ特に飛島に於いて著しいものがある結果と考えられる。

植物の分布も，これらの氣候的條件に支配され，山形縣內陸が，植物地理學上夏綠林を以て被われる地域であるにかゝわらず，飛島とその對岸は，常綠濶葉樹林の發達をゆるし，更に北して秋田縣金浦まで見るタブ群叢は最も特異的な存在と云えよう。このタブ群叢は特に東及て東北面の海岸に發達し，ヒサカキ・ツバキ・チャウジカヅラ・オホバグミ・マサキなどの常綠木本のほか，オホバマユミ・オホムラサキシキブ・エノキなどの暖地系の植物からなつている。尙僅かではあるが，ムベ・モチノキ・イブキ・ヤブメウガ等も見られ，今のところ，飛島を分布の北限とするものにムベ，モチノキ，チャウジカヅラ，ヒサカキ，ソナレ，カノコサウ，マサキ，ヤブメウガ，オホニハトコ等がある。

一方飛島には，やはり海流のもたらすところか寒地系の植物も分布し，こゝを南限とするものゝ多いことも注目に値する。これらのものにはアカネムグラ *Rubia jesoensis* Miyabe et Miyake, オホバナミミナグサ *Cerastium Schmidtianum* Takeda, ホロマンノコギリサウ *Achillea sibirica* Ledeb. subsp. *japonica* Heimerl, シカギク *Matricaria tetragonosperma* Hara et Kitamura, エゾツルキンバイ *Potentilla pacifica* Howell があり，中でもシカギクは本州に於ける唯一の產地であろう。尙，同島に產するハマベンケイサウ，エゾノコギリサウ *Achillea speciosa* Henckel, ハマハコベ，エゾヒナノウスツボ等の寒地系のものは，それぞれ佐渡及で能登半島まで及ぶようである。

飛島の自生植物は今までの調査によると，羊齒植物以上の高等植物105科388種類であるが，そのうち飛島と近接する奧羽の日本海岸の固有種と認められるものに，トビシマナシ *Pyrus insularis* Koidz., シマヤハズナシ *Pyrus tobishimensis* Koidz., トビシマザサ *Sasa tobishimensis* Nakai, オクノハマイボタ *Ligustrum Yuhkianum* Koidz., トビシマオトコヨモギ *Artemisia japonica* Thunb. f. *subintegra* Kitamura, オクコガネギク *Solidago mirabilis* Kitamura, トガヒゴタイ *Saussurea Muramatsui* Kitamura, ハマイブキバウフウ *Seseli ugoensis* Koidz., ヒメレンリサウ *Lathyrus ugoensis* Matsum., トビシマクワンザウ *Hemerocallis exaltata* Stout 等がある。

飛島には，約30年前岡村金太郎博士が渡つて海藻を採集されているほか，昭和2年には小泉源一博士の渡島があり，同6年には牧野富太郎博士を迎えて本縣博物學會の現地講習會が開かれたこともあつて，諸學者の旣に調査されたところであるが，余もまた昭和

2 年渡島以來前後 6 回の調査を行い，標本の同定には小泉源一博士・中井猛之進博士，特に菊科植物は北村四郎博士・禾本莎草類は大井次三郎博士の御指導にまつところが多く，佐藤正已博士はまたこの稿發表までに絶えず御後援を賜つた。こゝに深く感謝の意を表する。

尙，次に揭げる目錄の分類方式は本田正次博士の日本植物名彙（1939）に據つた。

羊齒植物 (ハナワラビ科) ハナヤスリ，(ウラボシ科) トラノヲシダ，イヌワラビ，オニヤブソテツ，シケシダ，ヲクマワラビ，ミゾシダ，コタニワタリ，ツヤナシヰノデ，ワラビ，(デンジサウ科) デンジサウ，(サンセウモ科) サンセウモ，(トクサ科) スギナ，(イハヒバ科) クラマゴケ，**裸子植物** (マツ科) アカマツ，クロマツ，(イブキ科) ハヒビヤクシン，**被子植物**，**双子葉植物**，**古生花被植物** (ハンゲシヤウ科) ドクダミ，ハンゲシヤウ，(ヤナギ科) シロヤナギ，(クルミ科) オニグルミ，(ブナ科) カシハ，ナラガシハ，コナラ，(ニレ科) エノキ，ケヤキ，(クハ科) クハクサ，ヤマグハ，(イラクサ科) ヤブマヲ，(ビヤクダン科) カナビキサウ，(タデ科) ヤナギタデ，シロバナサクラタデ，イヌタデ，オホイヌタデ，ミゾソバ，ママコノシリヌグヒ，ハルタデ，ニハヤナギ，オホイタドリ，スイバ，ギシギシ，ミヅヒキ，ギンミヅヒキ，(アカザ科) ハマアカザ，シロザ，コアカザ，ウラジロアカザ，ヲカヒジキ，(ヒユ科) ヰノコヅチ，イヌビユ，(ヤマゴバウ科) ヤマゴバウ，(ツルナ科) ツルナ，(スベリヒユ科) スベリヒユ，(ナデシコ科) ハマハコベ，ミミナグサ，オホバナミミナグサ，ナンバンハコベ，カハラナデシコ，シロバナカハラナデシコ，ウシハコベ，ハマツメクサ，ツメクサ，(ウマノアシガタ科) キクザキイチリンサウ，センニンサウ，スハマサウ，オキナグサ，タガラシ，キツネノボタン，カラマツサウ，エゾアキカラマツ，(アケビ科) ミツバアケビ，ムベ，(メギ科) ヒロハノヘビノボラズ，(ツヅラフヂ科) カミエビ，カウモリカヅラ，(クスノキ科) タブノキ，(ケシ科) ムラサキケマン，(アブラナ科) ハタザホ，ハマハタザホ，イハハタザホ，ナヅナ，タネツケバナ，ジヤニンジン，ミヅタガラシ，イヌガラシ，(ベンケイサウ科) ホソバキリンサウ，(ユキノシタ科) チシマネコノメサウ，(ナシ科) オホカマツカ，アヲナシ，トビシマナシ，シマヤハズナシ，(バラ科) キンミヅヒキ，ヤブヘビイチゴ，オホダイコンサウ，ミツバツチグリ，カハラサイコ，キジムシロ，エゾツルキンバイ，ノイバラ，ハマナス，ナハシロイチゴ，エビガライチゴ，ナガボノシロワレモカウ，(サクラ科) ウハミヅザクラ，オクヤマザクラ，(マメ科) クサネム，ネムノキ，ヤブマメ，ヌスビトハギ，サイカチ，ヤハズサウ，ハマエンドウ，ヒメレンリサウ，メドハギ，ネコハギ，ミヤコグサ，ウマゴヤシ，クズ，クララ，クサフヂ，スズメノエンドウ，ツルナシヤハズエンドウ，カスマグサ，フヂ，(フウロサウ科) ゲンノシヨウコ，ミツバフウロ，(カタバミ科) カタバミ，ウスアカカタバミ，(ヘンルウダ科) イヌザンセウ，サンセウ，(ニガキ科 ニガキ，(ヒメハギ科) ヒメハギ，(タカトウダイ科) エノキグサ，トウダイグサ，(ミヅハコベ科) ミヅハコベ，(ウルシ科) ツタウルシ，ヌルデ，(モチノキ科) イヌツゲ，モチノキ，(ニシキギ科) ツルウメモドキ，コマユミ，ツルマサキ，マサキ，オホバマユミ，(カヘデ科) イタヤカヘデ，(クロウメモドキ科) クロウメモドキ，(ブダウ科) ノブダウ，ツタ，ヤマブダウ，サンカクヅル，エビヅル，(シナノキ科) シナノキ，(サルナシ科) コクハヅル，(ツバキ科) ヤブツバキ，ヒサカキ，(オトギリサウ科) オトギリサウ，(スミレ科) タチツボスミレ，オホタチツボスミレ，スミレ，(グミ科) アキグミ，オホバグミ，(ミソハギ科) ミソハギ，(アカバナ科) ミヅタマサウ，チヤウジタデ，オホマツヨヒグサ，(アリノタフグサ科) アリノタフグサ，(ウコギ科) タラノキ，キヅタ，ハリギリ，(セリ科) シヤク，ホタルサイコ，ハマゼリ，ミツバ，チドメグサ，ハマイブキバウフウ，セリ，ヤブニンジン，ウマノミツバ，ヤブジラミ，(ミヅキ科) アヲキ，**後生花被植物** (イチヤクサウ科) イチヤクサウ，(ヤブカウジ科) ヤブカウジ，(サクラサウ科) ヲカトラノヲ，コナスビ，ハマボツス，ハヒハマボツス，(モクセイ科) ヤチダモ，オクノハマイボタ，(ケウチクタウ科) チヤウジカヅラ，(ガガイモ科) ガガイモ，スズサイコ，オホカモメヅル (ヒルガホ科) ハマヒルガホ，ヒルガホ，(ネナシカヅラ科) ネナシカヅラ，(ムラサキ科) ホタルカヅラ，ハマベンケイサウ，スナビキサウ，キウリグサ，(クマツヅラ科) オホムラサキシキブ，クサギ，ハマゴウ，

(ヲドリコサウ科) クルマバナ，ナギナタカウジユ，ヲドリコサウ，ホトケノザ，ヒメシロネ，カキドホシ，ウツボグサ，シロバナウツボグサ，ナミキサウ (ナス科) クコ，センナリホホヅキ，ホホヅキ，ムラサキヒヨドリジヨウゴ，ハダカホホヅキ (ゴマノハグサ科) ウンラン，アゼナ，エゾヒナノウスツボ，オホイヌフグリ，(ハマウツボ科) ハマウツボ，(タヌキモ科) タヌキモ，(ハヘドクサウ科) ハヘドクサウ，(オホバコ科) エゾオホバコ，タウオホバコ，オホバコ，(アカネ科) ヤヘムグラ，ウスギカハラマツバ，ハシカグサ，ヘクソカヅラ，アカネ，アカネムグラ，(スヒカヅラ科) オホニハトコ，ガマズミ，(ヲミナヘシ科) カノコサウ，(ウリ科) スズメウリ，キカラスウリ，(キキヤウ科) ハマシヤジン，ツルニンジン，アゼムシロ，(キク科) ホロマンノコギリサウ，エゾノコギリサウ，カハラヨモギ，オホヨモギ，トビシマヲトコヨモギ，ヒトツバヨモギ，ノコンギク，シラヤマギク，アメリカセンダングサ，タウコギ，ヤブタバコ，サジガンクビサウ，トキンサウ，ノアザミ，タカサブラウ，ヒメムカシヨモギ，ヒヨドリバナ，チチコグサ，ヤナギタンポポ，ヲグルマ，カセンサウ，ニガナ，ツルニガナ，ハマニガナ，ヒメヂシバリ，ホソバノアキノノゲシ，ユウガギク，ヤブタビラコ，シカギク，フキ，カウゾリナ，トガヒゴタイ，ノボロギク，タムラサウ，オクコガネギク，オニノゲシ，ハルノノゲシ，タンポポ，ヲナモミ，單子葉植物 (ヒルムシロ科) アマモ，(オモダカ科) ヘラオモダカ，アギナシ，オモダカ，(トチカガミ科) トチカガミ，ミヅオホバコ，(タケ科) タイミンチク，ノビトメザサ，ヤダケ，テウカイチマキ，チシマザサ，タンザハザサ，トビシマザサ，(イネ科) アヲカモジグサ，タチカモジグサ，カモジグサ，ヌカボ，スズメノテツパウ，カズノコグサ，スズメノチヤヒキ，キツネガヤ，ホソヤマアハ，テウセンガリヤス，ギヤウギシバ，メヒジハ，ノビエ，ヲヒジハ，テンキ，ニハホコリ，オホウシノケグサ，ウシノシツペイ，チガヤ，チゴザサ，ケカモノハシ，カモノハシ，ホソムギ，ドクムギ，アシボソ，ハチジヤウススキ，コチヂミザサ，スズメノヒエ，チカラシバ，アイアシ，ヨシ，ツルヨシ，ミゾイチゴツナギ，スズメノカタビラ，ナガハグサ，カハライチゴツナギ，ヒエガヘリ，キンエノコロ，エノコログサ，ハマエノコロ，ムラサキハマエノコロ，ムラサキエノコロ，カニツリグサ，シバ，オニシバ，(カヤツリグサ科) ミチノクホンモンジスゲ，アゼナルコスゲ，ヒカゲスゲ，アヲスゲ，カウバウシバ，タマガヤツリ，コゴメガヤツリ，メアゼテンツキ，ヤマヰ，マツバヰ，ヌマハリヰ，シカクヰ，カハラスガナ，ウキヤガラ，カンガレヰ，(テンナンシヨウ科) シヨウブ，セキシヨウ，ヒロハテンナンシヨウ，ウラシマサウ，(ウキクサ科) ウキクサ，(ツユクサ科) ツユクサ，ヤブメウガ，(ミヅアフヒ科) コナギ，(トウシンサウ科) ヰ，ヒロハノカウガイゼキシヤウ，ドロヰ，カウガイゼキシヤウ，ヒラヰ，スズメノヤリ，(シユロサウ科) アヲヤギサウ，(ツルボラン科) トビシマクワンザウ，(ネギ科) ノビル，アサツキ，(ユリ科) オニユリ，スカシユリ，クルマユリ，(キミカゲサウ科) ハウチヤクサウ，チゴユリ，アマドコロ，(ヤブラン科) ヒメヤブラン，ジヤノヒゲ，オホバジヤノヒゲ，(サルトリイバラ科) サルトリイバラ，シホデ，タチシホデ，ヤマカシウ，(ヤマノイモ科) ヤマノイモ，(アヤメ科) ノハナシヨウブ，(ラン科) カキラン，マヒサギサウ，ネジバナ．

主な參考文獻

結城嘉美: Flora of Tobishima prov. Ugo (1932)

村松七郎: 秋田縣植物誌 (1932)

結城嘉美: 山形縣植物誌 (1934)

橋本賢助: 飛島に於ける生物界 (山形縣史蹟名勝天然紀念物調査報告第七輯 1935, 莊内博物學會研究錄第 1 輯 1935)

廣橋 堯: 飛島と粟島 (齋藤報恩會時報 第 119 號, 第 120 號, 1937)

村井貞固: 飛島の生物相 (莊内博物學會研究錄 第 2 輯 1937)

結城嘉美: 飛島及びその近接區域に於ける新種植物について (莊内博物學會研究錄 第 2 輯 1937)

村松七郎・小林 新: 本州北部日本海沿岸に於けるヤブツバキの分布 (動物及植物 **9** 12, 昭 16)

村松七郎・小林 新: 日本海沿岸に於けるタブノキの分布 (動物及植物 **10** 7, 昭 17)

佐藤正巳: 飛島クワンザウに就いて (フロラ山形 **12**, 1949)

結城嘉美: 飛島のフロラ (フロラ山形 **12**, 1949)

佐藤正巳: トビシマクワンザウ (植物研究雜誌 **23**: 64, 1949)